

2017年度第3四半期決算・電話会議説明要旨（2018年2月9日発表）

千代田化工建設の林です。

いつもたいへんお世話になっております。

本日はお忙しいところ電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

時間も限られておりますので、早速ですが、2018年3月期・第3四半期決算概要および通期業績予想についてご説明いたします。

まず、当第3四半期の決算における3つのポイントをご説明します。

スライドの2ページ・決算ハイライトとスライド3ページの業績概要をご覧ください。

まず、1点目は、完成工事高が順調に増加していることです。

第3四半期実績は3,859億円で、5,000億円の通期予想に対して約77%の達成率となりました。

第2点目は、第3四半期実績で純利益が52億円となりました。

第3四半期は、主要プロジェクトが進捗したことに加え、販管費が減少したことなどにより、営業利益、経常利益が業績予想の水準に向け進捗いたしました。具体的には、第2四半期に比べ、営業利益、経常利益は各々43億円、40億円増加し、純利益が52億円となり、第2四半期のあと、いわば巡航速度に戻る決算となりました。

第3点目は、通期予想の当期純利益は50億円と、第2四半期決算発表時点の予想と不変です。

今後とも、各プロジェクト等を確実に遂行し、通期予想の確実な達成を目指してまいります。

続いて、それぞれの決算関連項目について簡単にご説明いたします。

スライドの4ページをまずご覧ください。

受注高は、海外 959 億円、国内 1,132 億円の合計 2,091 億円で、通期予想の約 6 割となっております。

特に、国内の受注実績は 1,132 億円と、通期予想 1,300 億円の 87%に達しており、順調に受注を積み上げております。

その中身を分野別で見ますと、「環境・新エネルギー・インフラその他分野」の受注が 679 億円となり、前年同期比では約 37%の増加、また本第 3 四半期の受注実績に対しては全体の 30%強を占めるなど、この分野の伸びを示しております。

また、これに「医薬・生化学・一般化学分野」を加えますと、両方で全体の 47%と、ほぼ半分を占めており、中期経営計画で、エネルギーに加えてもう一つの柱として掲げた、地球環境エンジニアリング部門が成長しているといえます。

以上のように、国内の受注が安定しており、特に、地球環境エンジニアリング分野での受注が見込めますことに加え、海外では関係会社の中小案件、更に現在遂行中の大型案件の追加工事の受注等も見込めることから、通期 3,500 億円の受注目標は据え置きと致します。

スライドの5ページをご覧ください。

受注残高は、6,950 億円と漸減傾向にあります。今後、新規の大型 LNG 案件、すなわち、モザンビーク Area1、米国の Golden Pass、サハリン 2・トレイン 3 といった、いずれも当社が FEED を遂行した案件の FID が、来年度以降に期待できる見通しです。

また、カタール増産計画につきましても、来年度には FEED が始まるものと予想しております。

次にスライド 6 ページは損益計算書項目となります。

まず、完成工事高でございますが、3,859 億円となりました。

手持ち大型案件がピークを迎えてきたことなどにより、完成工事高は前年同期比で減少しておりますが、通期予想 5,000 億円の 77%となり、目標に対して順調に進捗しております。

また、スライド 7 ページでございますように、分野別では、ベトナムおよびカタルの製油所案件が昨年度に完成したことなどにより、「石油・石油化学・金属分野」の完成工事高が減少していますが、一方で、「環境・新エネルギー・インフラその他分野」と、「医薬・生化学・一般化学分野」では伸びが見られまして、中期経営計画でお示しました地球環境エンジニアリング事業の拡大の方向が徐々に現れてきております。

また販管費につきましても、151 億円と前年同期比で 9 億の減となり、中期経営計画でお示した構造改革の成果が現れ始めています。

これらの結果、営業利益は、第 2 四半期時点の▲131 億円から 43 億円増加し、▲88 億円となっております。

これに加えて、第 2 四半期でご説明いたしましたように、EMAS Chiyoda Subsea 社に関する損失引当金を取崩し 121 億円の特別利益の計上したこと、米国案件のコスト増に伴い米国子会社の連邦法人税の還付があったことなどにより、特別損益がプラスの 129 億円、法人等が 7 億円となり、この結果、第 3 四半期までの累計の純利益は 52 億円となりました。

次にスライド 8 ページのバランスシートを簡単にご説明致します。
2 点ご説明させていただきます。

現金及び預金等が 361 億円減少しておりますけれども、第 2 四半期
でご説明致しました米国 LNG 案件のコスト増などにより、米国子会
社の現預金が減少したことが主な要因でございます。

つぎに、工事損失引当金が 2016 年度末に比べ 17 億円増加していま
すが、これは本第 3 四半期におきましては、主として遂行中の海外
中小案件に向け 9 億円の引当金を計上したことによるものでござい
ます。

では、最期にスライド 9 ページ、通期業績予想をご覧ください。

通期業績予想は、完成工事高 5,000 億円、営業利益は▲95 億円、
経常利益は▲80 億円、当期純利益は 50 億円と、第 2 四半期で公表致
しました通期予想と不変でございます。

今後とも、各プロジェクト等を確実に遂行し、通期業績予想の達成を
目指してまいります。

なお、来期・2019 年 3 月期の業績予想につきましては、2018 年度 3
月期決算発表時に発表致します。

以上で、第 3 四半期決算および通期業績予想についての説明を終わ
らせていただきます。

では、これよりご質問をお受けいたしますので、よろしくお願い致し
ます。

以 上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢
の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来
の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。